**旭川大学　小児看護学実習評価表（幼稚園実習および病院施設実習）**

実習場所：　　　　　　幼稚園　　　　　　　　　病院

実習期間：　　月　　日　（　）～　　月　　日　（　）

学生番号：　　　　　　　　　学生氏名：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価視点 | **評　　価　　項　　目** | **学生評価** | **総合評価** |
| 対象理解 | 1 小児の成長・発達の特徴および個人差・個別性のあることが理解できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 小児の成長・発達を促進させる生活環境と大人の役割を考えることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3 健康を障害された小児の日常生活が理解できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 健康を障害された小児とその家族への影響が理解できる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 看護過程の展開 | 1 既習の情報枠組みを使用し必要な情報の整理および看護アセスメントができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 対象の看護問題および看護目標を明らかにすることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3 対象に必要な看護援助を行うための計画立案ができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 立案した看護計画を評価することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 対象とのコミュニケーション | 1 小児の発達段階を考慮したコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 健康を障害された小児とその家族の状況を考慮したコミュニケーションがとれる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3小児の発達段階に応じた説明と自己決定を尊重する倫理的態度で関わることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 対象への看護援助 | 1 健康を障害された小児とその家族の状況を考慮し必要な看護援助を考えることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 健康障害による影響や小児の個別性を考慮した看護援助の工夫を考えることができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3小児とその家族の安全・安楽を考慮した看護援助を実施することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 体験あるいは見学した看護援助を振り返り評価することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 実習態度 | 1 実習に必要な事前学習や補足学習は主体的に行うことができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 2 連絡・報告・相談を行い、助言を受け入れ主体的に取り組むことができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 3 看護学生にふさわしい言葉使いや身だしなみ、健康管理など責任ある行動がとれる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 4 カンファレンスでは積極的に意見交換でき、学びを共有することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
| 5 実習記録物は提出期日までに提出することができる | A・B・C・D・E | A・B・C・D・E |
|  | 合計点 |  |  |
| 評価基準 | A（5点）：指導を受け主体的に達成できた　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　B（4点）：指導や助言を受けながら達成できたC（3点）：多くの指導や助言を受けながら達成できた　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　D（2点）：多くの指導や助言を受けながらなんとか達成できたE（1点）：多くの指導や助言を受けたが達成できなかった |

|  |
| --- |
| 小児看護学実習に対する学生の振り返り |
|  |

　　　　　　　　　　　　　　　　　小児看護学実習記録　様式9号